



FC岐阜

株式会社岐阜フットボールクラブ

代表取締役社長 宮田博之 氏

中島賢星選手、イヨハ理ヘンリー選手のご紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号：8

中島賢星 選手 MF

福岡県出身で横浜マリノスに2年半、岐阜で4年目の2020シーズンは副キャプテンとして後輩、同輩などの多くの若手や先輩選手達との間でまとめ役が出来て大変良い体験になった。

岐阜に来て4人の監督の元で練習や試合が出来て、それぞれに学ぶことがあって貴重な経験

になった。自分は前線の選手と思っていたが、今では守備の重要性を認識して、MFとして守備を楽しく思っています。もちろん得点やアシストも多くして2020シーズンは5得点1アシストでしたが、2021シーズンは合計10得点を目標にします。

岐阜の街は大都市でないだけに、いざ住んでみるとコンパクトで住みやすく、早く以前のように気軽にショッピングや食事など玉宮、柳瀬界限を友人と楽しみたいです。ホームタウン応援大使をしている郡上市には既4回行って、盆踊りにも参加して楽しんだのが懐かしく、また行きたいと思っています。ドライブが好きで岐阜には池田山などのよい眺望の楽しい場所がたくさんあり幸せです。

人見知りするので、ムスッとしているように見えることもあるようですが、根は明るくてお茶目な楽しい人間ですのでよろしくお願いします。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号：27

イヨハ理ヘンリー 選手 DF

愛知県出身で母親のご出身は岐阜市で親戚は皆さん岐阜県在住、幼稚園は一宮市、小中学校は江南市であり、親戚、友人の皆さんは岐阜周辺に固まっているので、ホームの試合にはいつも大勢のヘンリーファンが応援に来てくれて有難く感謝しています。

昨年で3年目のディフェンスを任せられ、出場24回と一番多いシーズンとなったのは嬉しいことです。昨年は無失点の試合が多くなってきたのが一番うれしく思っています。

今まではケガのために出場できないことが多かったですが、トレーニングによって、接触の多いお尻や太もも裏の部分にも筋肉がついて、ケガをしなくなりましたし、自分でも遅くなって来たと感じており、その効果はこれからのプレーで表したいと思います。

今までのサッカーの試合での思い出は2つ。一つは高3の冬の最後の試合、埼玉スタジアムでの高松宮杯決勝戦で敗れた悔しさ。もう一つは昨年プロ選手として初出場が横浜FCとの9,000人を超える大観衆のホーム開幕戦のピッチに立てた感激。

そして、昨年は栗飯原選手からのコーナーキックを最前線に飛び出して左後方にプロ初ゴールを決められたことで、何度も練習した日頃の成果が決まった瞬間でした。

山県市のホームタウン応援大使をしており、山紫水明でゆっくりできるところが好きですし、好きな散髪屋さんにもリラックスしに行くのを楽しみにしています。

*こちらの記事は2020年12月18日に実施した取材をもとに構成しています